



割竹式登り窯



展示室 外観



展示室からの眺望



高台内の印



展示室 内



五代
眞清水 藏六
Zouroku Mashimizu

- ▶1962年
京都市出身
- ▶1985年
京都工業試験場を
修了後、陶芸家・
西岡小十に師事。
10年間の修業後、
京に戻り、父・眞清水
藏六に師事。
- ▶1998年
唐津に割竹式登り窯
「玄々窯」を築く。
- ▶2013年
五代眞清水藏六を襲名。

- 駐車場
- 作業風景見学
- 体験教室
- 要連絡

ゲン
ゲン
ガマ
玄々窯



京都の4代眞清水藏六の長男として生まれ、現在は唐津にて作陶活動を続ける眞清水藏六さん。京都に生まれながらも、唐津焼の魅力を活かした焼き方を目指していきたくという。自分の目指している作品とお客さんが求めている物が合致すれば嬉しい。目指すところは「茶陶」だ。歴史があり、約束ことが多いので難しい。茶の精神を継ぎながら、作品でも生き方でも藏六さんは精進していく。

「唐津焼の魅力は土や種類が多いこと」と話す藏六さん。薪窯で焚くことで温かみのある器、釉薬の種類を活かした焼き方を指していきたくという。自分の目指している作品とお客さんが求めている物が合致すれば嬉しい。目指すところは「茶陶」だ。歴史があり、約束ことが多いので難しい。

京都で身に付いた茶の精神を生かして。